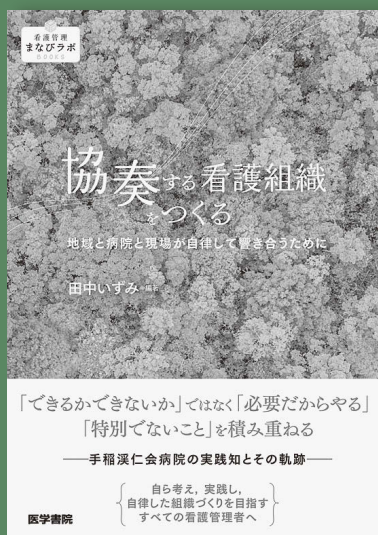


書評

《看護管理まなびラボ BOOKS》

協奏する 看護組織をつくる

地域と病院と現場が
自律して響き合うために



- 編著 田中いずみ
- 定価 2750 円 (本体 2500 円 + 税 10%)
- 判型 A5
- 頁数 216
- 発行 医学書院

看護管理者が一步踏み出す 勇気とヒントに満ちた一冊

著者の田中いずみさんが大会長を務めた第 29 回日本看護管理学会学術集会のテーマは、「暮らしの中の協奏」でした。私は「協奏」という言葉を、主に音楽の文脈で使われるものと理解していたため、「暮らし」と一体どのように結びつくのか、強く興味を引かれました。田中さんとは以前、医学書院の座談会で一緒にしたこともあり、このテーマに込められた意味を知りたいと、特別の思いで学術集会に臨みました。

学術集会に参加し、そして、時を同じくして出版された本書『協奏する看護組織をつくる』を読み、田中さんが大切にしている「協奏」の概念についてより深く理解できたように思います。本書には、田中さんが「協奏する看護組織」を目指してこれまで行ってきた組織づくりの実践が、余すことなく綴られています。読み進めるうちに、私自身の看護管理者人生とも重なり、何度もうなずき、胸の高鳴りを感じました。

田中さんは、10 年前の看護部長就任直前に、小森谷浩志氏の著書『協奏する組織』で「協奏」の概念に出会い感銘を受け、「人と人で支え合い、学び合い、奏でる組織」、すなわち「協奏する組織」を目指したいと思うようになったと述べています。それ以来、ぶれることなくこの概念を軸に、着実に組織づくりに取り組んでこられました。

その協奏の範囲は、院内などの組織の

中だけにとどまらず、地域にまで広がり、組織と組織、人と人がつながり、それぞれが自律して活動が続けられています。そこには、リーダーのトップダウンの命令ではなく、患者のため、地域のためという共通の目的のもと、1 人ひとりが自律的に考え、行動し、そのプロセスを楽しめる組織という、まさに田中さんが目指した組織の姿が展開されています。

本書は 3 部構成となっており、第 1 部「協奏する組織をつくる」では、「協奏する看護組織」に対する田中さんの思いや自律的な組織を育む仕掛けが語られます。第 2 部「協奏する組織の歩み」では、副看護部長や看護師長が、それぞれ関わっている具体的な取り組みについて執筆しています。そして、第 3 部「協奏する組織のこれから」では、未来を見据えた専門職としての看護師の在り方や、患者の生活機能に焦点を当てた院内外のチーム医療の推進が展望されています。

本書は、組織の規模を問わず「自分の組織を発展させたい」「職員同士が同じ目的を目指せるようにしたい」「地域ともっとつながりたい」「自律した看護師を育てたい」といった願いを持つ全ての看護管理者に勇気とヒントを与えてくれるでしょう。本書を読み終えたとき、自分の中に一步踏み出す力が芽生えることを実感できるはずです。この本に出会えたことに、心から感謝します。

評者

大坪会グループ 看護局長
川崎つま子